

しものべぎか

## 下延坂遺跡(本発掘調査B)

**所在地** 北設楽郡設楽町川向字上延坂・下延坂  
(北緯35度06分58秒 東経137度34分28秒)

**調査理由** 設楽ダム

**調査期間** 令和2年6月～令和2年11月

**調査面積** 3,130㎡

**担当者** 鈴木正貴・堀木 真美子・蔭山誠一



調査地点(1/2.5万「田口」)

**調査の経過** 調査は、国土交通省中部地方整備局による設楽ダム工事関連事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受けて、令和2年6月から同年11月にかけて実施した。調査面積は3,130㎡で、北東から南西に細長い調査範囲のうち、北東側を20A区、南西側を20B区として調査を行った。

**立地と環境** 下延坂遺跡は境川右岸の河岸段丘上から山麓の丘陵斜面に立地する遺跡で、本年度の調査区は町道79号川向境川線の山側に当たり、調査前の遺跡部分は宅地や畑が棚状の段になっており、一部に植林がされていた。

**調査の概要** 基本層序は、上から表土及び近代以後の整地・盛土、中世以後の土石流の堆積、縄文時代晩期～弥生時代の遺物を包含する黒色粘土質シルト層、縄文時代の土石流の堆積、地山の黄褐色粘土・岩盤となる。遺構と出土遺物は、20A区北端部と中央部から南側部分、20B区の北西側の緩やかな斜面において確認できた。確認できた遺構と出土遺物には、縄文時代晩期～弥生時代前期(約3,000～2,500年前)、弥生時代中期後葉(約2,000年前)、鎌倉時代～室町時代(約700～500年前)の大きく3時期のものがあつた。

縄文時代晩期から弥生時代前期の遺構には、竪穴状遺構9基、平面円形から楕円形の土坑123基を確認した。竪穴状遺構は、長軸3m前後、短軸2m前後の平面隅丸台形から楕円形をしており、遺構の縁がやや溝状に深くなっていた。炉の痕跡と思われる焼土面や石積み、柱穴跡は確認できなかったが、大型の平石が床面上で見つかるものがあつた。出土遺物には縄文土器(条痕文土器)、打製石斧、石匙、剥片などがある。

弥生時代中期後葉の遺構は、20B区西側の179SKがある。この土坑の中からは、弥生土器の櫛条痕調整深鉢が出土した。

鎌倉時代～室町時代の遺構は、20A区中央部に土坑29基を確認した。これらの土坑は山の斜面を棚状に削り出した平坦面に2～3列の列状に並んでいた。その平面形は円形から楕円形で、大きさは径20～140cmまで大小のものがあつた。土師器の伊勢型鍋や羽付鍋、鉄製品が出土する土坑もあつた。

**まとめ** 今回の調査で確認された遺構と遺物は集落跡の一部分とはいえ、設楽地域の歴史を考える上で貴重な成果となった。(蔭山誠一)



遺跡全景(上から)

35



20A区北端部(北東より)



20A区002SK断面及び遺物出土状況(東より)



20A区006SK条痕文土器出土状況(北より)



20A区中央部にある中世の土坑群(南西より)



20A区159SK羽付鍋出土状況(南西より)



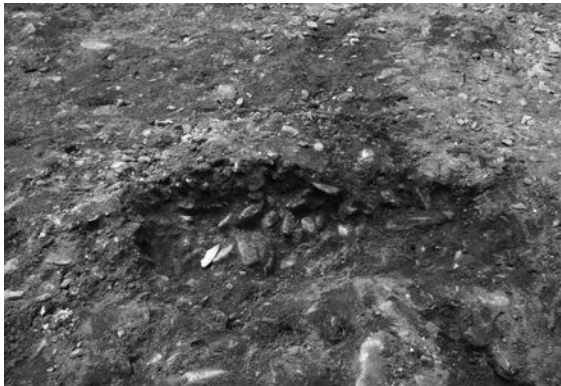
20A区145SK鉄製品出土状況(南より)



20A区121SX石匙出土状況(東より)



20A区122SK打製石斧出土(北東より)



20A区077SK断面・剥片出土状況(東より)



20A区南西隅部(南西より)



20A区107SK作業風景(北より)



20A区107SK(北より)



20A区090SK(北より)



20B区全景(南より)



20B区179SK弥生土器出土状況(北東より)



20B区180SK~182SK(南西より)